

当院における薄切の精度管理について

◎嶋崎 健介¹⁾、岩崎 朋弘¹⁾
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院¹⁾

【緒言】

我が国において病理診断は、細胞、組織形態に基づき疾患の確定診断を行う事に加え、病気に重要な分子の発現や異常を調べる分子病理診断やゲノム情報による診断も幅広く取り入れ、個別化医療の提供に大きく貢献されている。そのような中で、医療の向上に大きく寄与し、精度の高い病理診断を行うためには、標準化された病理標本作製技術や高度な専門知識が必要となる。各施設では検体受付から病理組織標本作製、および病理診断までの「内部精度管理」が行われ、不断の努力が払われている。平成26年3月には特定非営利法人 日本病理精度保証機構が設立され認証された。同機構では学会等と連携のもと、質の高い病理診断のために、精度管理の必要性についての普及・啓蒙活動、多施設の病理診断の定期的な評価、各施設の是正点の把握や改善を促すための恒常的な活動が行われている。また、同年には日本病理学会・日本臨床衛生検査技師会協働のもと認定病理技師制度が発足された。認定病理技師は標準化された病理標本作製技術・専門知識、病理解剖解除業務、および病理部門のマネジメントを総合的に評価し認定された者で、病理医と共に国民の医療に貢献するため活動する責務を担う。この様に病理部門における精度管理は現在において必要不可欠のものであり、我々病理従事者は、今後も継続的・恒常的に行う責務があると考えます。当院においても2015年から薄切における内部精度管理を継続的に行っている。今回、病理部門移転に伴う設備環境の変化や新規採用者による人員の変化など、業務環境の変化があったため、薄切の内部精度管理に

おける続報を報告する。

【対象と方法】

薄切担当者10名が、同一ブロック（正常肝臓）で切片厚3 μ mを目指し薄切。切片厚の比較は1視野/強拡大あたりの肝細胞核の数を計測する事により行う。基準となる切片は共焦点レーザー顕微鏡を使用し切片厚3.0 μ mと計測された切片。パラフィンブロックの自然膨張の影響を極力避ける為、室内環境は室温20 $^{\circ}$ C、湿度60%でブロック冷却せず薄切する。現在精度管理実施中であるため、結果や考察は発表当日報告する。

【連絡先】地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院-054-641-6111